

令和 3年 3月29日

黒松内町保健福祉課

第8期黒松内町地域福祉計画素案に対するパブリックコメントの実
施結果について

- 1 募集期間 令和3年2月25日～令和3年3月24日
- 2 募集方法 郵送、ファックス、電子メール、持参
- 3 意見者数 個人 3名
- 4 意見数 6件
- 5 提出方法 ファックス、電子メール、持参 各1名

第8期黒松内町高齢者保健福祉計画素案に対する意見に対する考え方

No.	該当箇所	意見内容	意見に対する町の考え方
1	その他	<p>高齢者に対する町の基本方針の素案について、足を運んで見に来なさいという態度は町民の意見を聞きたいという姿勢がうかがわれない。回覧できないのかと思います。</p>	<p>町民の皆様からの意見公募（パブリックコメント）については、本計画に限らず広く皆様の声を施策に反映するため、黒松内町みんなで歩むまちづくり条例に基づいて実施しています。</p> <p>公募の前提となる必要事項の公表（計画閲覧）に関しては、町ホームページへの掲載及び役場庁舎・保健福祉センターに備え付けて実施していますが、さらに回覧等で配布するにはページ数が多く、配布が困難であるため、前記の方法による対応とさせていただきます。</p> <p>皆様大変お手数をお掛けしますが、御理解頂きますようお願いいたします。</p>
2	<p>第6章 これからの地域づくり=31項=</p> <p>2 黒松内版「人材循環社会」の実現</p> <p>(5) 安全・安心な地域づくり</p>	<p>黒松内町総合体育館は避難所になっていますか？</p> <p>同体育館は、国道からみると下がった位置になっているように思いますが、寿都湾で津波が起きた際には朱太川が逆流して水が押しよせるのでは？</p>	<p>黒松内町総合体育館は指定避難場所として指定されています。</p> <p>指定避難所は災害発生の危機によって避難した住民が、必要な間滞在するほか、自宅等に戻れなくなった住民が一時的に滞在する施設です。</p> <p>同体育館は1, 000年に一度を想定した大雨災害等が発生した際には、浸水被害が見込まれますが、津波被害については東日本大震災時においても河川における最長の河川津波浸水被害発生が河口から約12kmとされており、市街地区に達しないため、津波による被害は想定していません。</p> <p>また、大雨等により同体育館への浸水が予期された際には、比較的高所にある避難所（黒松内中学校、しりべし学園分校等）への避難を伝達します。</p>
3	<p>第5章 計画の基本的な考え方=16項=</p> <p>2 計画の基本的な考え方</p>	<p>第4次黒松内町総合計画基本構想では「人と自然が彩るなんか居心地のいいまち くらまつない」をシンボルテーマに掲げており、人材活用とブナ北限の里である黒松内の自然の特長を生かした町づくりを基本にしているものと思いますが、本計画の基本的な考え方の2つの柱に黒松内の自然に関する記載がありません。</p> <p>いつの時代においても人と自然との関わり（共生）は欠かすことができないものです。これまで先人が守り育ててくれた北限のブナ里の自然を高齢者の保健や福祉に活かす具体的な計画を望みたい。</p>	<p>御意見を頂いた通り、北限のブナ林をはじめとした豊かな自然を生かした取り組みは、長く続く本町の歴史の中で、先人から受け継いだ貴重な自然資源、まちのシンボルとしてまちづくりの柱に据えています。</p> <p>ただ、本計画は本町において高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けられる環境を作るため、公的機関・民間施設・住民団体・地域住民・高齢者自身等をそれぞれの立場で、いかに高齢者の生活を支えるかを目的とした個別計画で、高齢者の暮しとその支え手の維持に焦点を当てたものとなります。</p> <p>高齢者の生活に直結する課題の解決策を検討する本計画では、町民同士の繋がりや高齢者が利用する地域資源の維持・活用に主眼を置いたものとなっておりますので、本計画の特性を御理解頂きますようお願いいたします。</p>

No.	該当箇所	意見内容	意見に対する町の考え方
3 ^ 続 き v	第3章 時代の潮流 = 5項 =	<p>厚生労働省の基本的なコンセプトに「地域共生社会」がありました。</p> <p>今回の素案においては「人と人」の共生は評価ができると思いますが、「人と資源」は必ずしも十分でないように思います。</p> <p>高齢者のみならず世代を超えた住民が、地域の自然や耕作地、施設（公私）、住居等の環境は「生きがい」を持って暮らす上で極めて重要なことだと思います。</p> <p>具体的には有害鳥獣対策があります。家庭菜園をやっても収穫時にアライグマや鹿に食べられては栽培しようとする意欲も失せてしまいます。アライグマは狂犬病、キツネはエキノコックス症等の宿主です。安全対策の面からも高齢者ばかりでなく、重点的な対策が必要ではないかと考えます。</p>	前記の回答と同様です。
	第6章 これからの地域づくり = 27項 = 2 黒松内版「人材循環社会」の実現 (3) 情報共有の確立	<p>「情報の共有」ですが、この素案をつくる前の段階での高齢者やこれから高齢になる住民の困りごとやニーズを把握することが情報を共有するスタートだったのでは。</p> <p>個別にアンケート用紙が配布されていたら、私はスマートフォン等による、保健福祉関係の相談体制の確立や病院や施設の利用方法などの情報提供、さらには電子化により手続きの簡素化等々を要望していた。</p>	<p>本計画策定にあたっては、これまでの他の計画策定等の流れを踏まえ、学識経験者、医療・福祉関係者、公募委員によって組織した計画策定委員会及び高齢者福祉等に係る関係者へのヒアリング等福祉に携わる方々の意見を頂きながら進めさせて頂きました。</p> <p>また、令和2年度スタートの第4次黒松内町総合計画策定の際に実施した「まちづくりアンケート調査」結果等も参考にしながら素案を作成しておりますので、御理解を頂きますようお願いいたします。</p> <p>なお、御意見を頂いた個別の取組みについては、今後施策を進める上での具体的な手法としての参考にさせて頂きます。</p>
その他		<p>介護保険事業計画がなぜ後志広域連合での策定になっているのか疑問。法の下での事業なので特に地域性を考えなくてもよいということなのでしょうか？</p> <p>また、後志広域連合がどのように住民の声を汲み上げて作成しているのかも知りたい。</p>	<p>本町における介護保険事業は、効率的な事業の執行等を目的に後志管内16町村で作る後志広域連合を保険者として運営されています。</p> <p>介護保険事業計画については、介護保険法により同事業を運営する保険者に策定が義務付けられたものであるため、同広域連合が策定しています。</p> <p>なお、同広域連合においては、介護保険事業計画策定に際して加盟する全町村の65歳以上の住民を対象としたアンケート調査を実施し、計画に反映しています。</p>